

中田勝久氏が南あわじ市長に再選

市長選挙

任期満了に伴う南あわじ市長選挙が2月1日行われ、即日開票の結果、現職の中田勝久市長が再選。2期目（任期：4年）の中田市政がスタートしました。



▲初登庁で職員から花束を受け取る中田市長

選挙結果

候補者氏名	得票数
中田勝久	17,341票
榎本喜一	7,975票

有権者数	42,993人
投票総数	25,894人
投票率	60.23%
有効投票数	25,316票
無効投票数	577票

2月2日、初登庁の後、中田市長は市幹部職員を集め、訓辞を行いました。

「厳しい景気状況の中、市民一人ひとりがそれぞれ問題を抱えています。市民目線まで踏み込んで、一生懸命に懸命仕事に取り組んでもらいたい」と話しました。これを受け、稲山益男総務部長は「気を引き締め、職務に専念します」と応えました。



▲市幹部職員を集め、訓辞する中田市長

とれたて旨い海産物、いかが？

地元産の魚をPRしようと2月7日、南あわじ市水産まつりが開催され、約1200人が灘漁港に集まりました。



▲わかめしゃぶしゃぶを堪能

まつりでは、市内漁協などがアナゴやフグ、タチウオ、ワカメなど新鮮な海産物を提供。神戸市から来た女性は、「水仙を見に来たついでに寄ってみました。かなり並びましたが、とても美味しい魚を堪能できました」と話していました。

定額給付金・子育て応援特別手当

新聞やテレビなどで報道されている「定額給付金」と「子育て応援特別手当」については、国で関連法案が成立した後、速やかな給付開始をめざし現在準備を進めています。南あわじ市では、所得制限を設けずに、地域の経済対策として原則現金での給付を予定しており、給付当日は昨年末に引き続き、1割特典付きの「元気出そう！商い応援振興券」も合わせて会場販売する予定です。給付の方法などの詳細が決

まり、準備が整い次第、該当者（世帯主）へ市役所から通知案内で詳しくお知らせしますので、今しばらくお待ちください。なお、定額給付金によそおった「振り込め詐欺」や「個人情報詐欺」にはご注意ください。 南あわじ市 市長公室 ☎43・5002

「元気出そう！商い応援振興券」の取扱店を募集 南あわじ市商工会々員以外の商工業者で取扱店登録希望者は、3月10日（火）までに商工会 ☎42・4721へ。

阪神・赤星選手 車椅子を寄贈

プロ野球・阪神タイガースの赤星憲広選手は、自身の盗塁成功数に応じて、全国の福祉施設や病院に車いすを寄贈しています。今回、1台が南あわじ市へ届き、障害者福祉施設「きらら」に設置しました。車椅子には赤星選手のサインが入っています。赤星選手、ありがとうございます。

ふるさと納税

ご寄附ありがとうございます。寄附金は淡路人形会館建設事業などに活用させていただきます。

ふるさと南あわじ応援寄附金 (2月17日現在)

区分	件数	金額
南あわじ市内	157件	25,778,219円
市外(島内)	28件	1,716,000円
市外(島外)	101件	7,994,940円
合計	286件	35,489,159円

詳細は市のホームページに掲載しています

ふれあい市長室 市民のご付託に感謝！

「経世済民」の志を抱く 南あわじ市長 中田勝久

市民の皆様から、再度市長として二期目のご付託をいただきました。責任の重さを痛感し、身の引き締まる思いでございます。これからの4年間、「経世済民」の志を高く抱き、南あわじ市のために全身全霊働いてまいります。

私は、マニフェストの中で、「売り出そう・生み出そう！」と題して「まちづくり宝船構想」を打ち出しました。この想いの一端は、旭山動物園の工夫と愛情、徳島県上勝町のいろどり葉っぱビジネスの発想の転換と生きがい、矢祭町の市民の団結と郷土愛などにより施設や地域が変貌をとげ、成果を出してきたところに視点を置いたものです。

全国には独自のアイデアと行動力で生まれ変わっている地域が沢山あります。市民や行政、団体組織全てが自立し、自ら考え、自ら行動する。単に批判や評論だけでは前進できないことを痛感し、目的地を定め運命を自分で切り開く、道筋を考え推進力を持つて進む、即ち「夢、知恵、元気を全てのがが出しつくし共に行動しないと立ち遅れてしまう時代に入っております。地域活性化の救世主は「人のやる気」と「積み重ね」であり、「作ったものをどう売るか」とともに「売れるものをどう作るか」であります。人材が極めて豊富な南あわじ市において、まだまだその「潜在能力」が最大限に発揮されていないと感じております。

産業振興や地域整備において、激動の時代を生き抜くには、自らの課題にもかかわらず、単に座して何もしないで批判するだけの風潮があればこれを否定し、他人依存型の考え方があればこれを改める必要があると考えております。 これからも「やる気」を持ち、「共に汗をかく」意気込みのある方々や地域に対し、積極的に支援し、成果や結果が生み出せる施策を展開してまいりますので、市民の皆様方の才能をより一層発揮いただきますようお願いいたします。

庁舎等、公共施設について答申

市内の庁舎などの公共施設の在り方について、検討する庁舎等公共施設整備検討委員



▲市長に答申書を手渡す仲山委員長(右)

会（仲山勝己委員長）が、延べ14回にわたる調査・議論を行い、答申をまとめ、2月18日、中田市長に答申書を手渡しました。

同会は、平成18年11月に中田市長の諮問を受け、市民代表ら20人で組織。市の将来像を考慮し、市民サービスの在り方、経費的な分析を行い、答申にまとめました。 市としては、この答申を尊重しながら進めて行くこととなります。

竹本伊達大夫さんの遺品、寄贈

大阪・文楽の義太夫として活躍し、昨年5月に79歳で亡くなった南あわじ市出身の5代目竹本伊達大夫（本名 森田進）さんの遺品14点が、淡路人形浄瑠璃資料館へ寄贈されました。

竹本さんは、22歳の時に文楽の4代目伊達大夫に弟子入りし、長年、国立文楽劇場で活躍。同劇場の文楽優秀賞を3度受賞するなどの実力者でした。 遺品は、愛用していた見台



▲故・竹本伊達大夫さん

※経世済民…世を治め、民衆を苦しみから救うこと。またそのような善政。